

1. 活動の概要

6月28(月)、出雲市立平田中学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに県埋蔵文化財調査センターの職員から、島根県内の原始・古代の特徴について話を聞きました。後期旧石器時代には隠岐と島根半島が陸続きであったこと、縄文時代の狩猟・採集経済、弥生時代の米づくりと出雲平野のムラと王の関係、古墳が有力者のお墓であること、ヤマト政権やその頂点に立つ大王がいたことを学びました。また、島根県の飛鳥・奈良・平安時代についても、発掘調査による役所の跡などから学習することができました。そのほか、島根県内で出土した各時代の実物資料も紹介していただきました。

2. 活動の様子

発掘調査からわかった原始・古代の島根



学習の様子



実物の出土資料を実際に手にとって、観察してもらいました。

3. 子ども塾を終えて

1)生徒の皆さんから…

- ・たくさんの土器や昔に作られた物がたくさん見られて良い経験になりました。
- ・旧石器時代では氷河期があり、隠岐と島根県が陸続きだったことを知って、びっくりしました。
- ・昔の生活の仕方をもっと勉強したいです。
- ・出雲には発掘で出土する物がたくさんあるし、古墳も大和朝廷や他の地方とつながりの深い物がたくさんあると感じました。
- ・なぜ出雲は他の地方とつながりが深かったのか、知りたくなりましたし、疑問にも思いました。

2)担任の先生から…

- ・郷土の原始・古代の歴史について詳しくご教示いただいた
- ・地元の古墳や遺跡の話が子供たちの興味関心をひいた
- ・専門的な知見を知ることで、発掘調査の意義や考古学の一端に触れることができた
- ・土器や石器などの実物を準備していただき、見せていただいた
- ・土器の破片をたくさん準備していただき、実際に多くの生徒が触れることができた
- ・地元の古墳の話だけでも面白かったと思いました。こちらも来ていただけるなら、と盛りだくさんの願いをしてしまいましたが、話を絞ると良かったと思いました。
- ・募集期間が短くて、学校の様々な行事との兼ね合いが難しい。が、今年度実施してイメージがわきました。

3)埋文センターから

- ・できるだけ、県内の遺跡の様子がわかるような発掘調査のスライドを用意しました。文字による記録の無い時代、あるいは少ない時代の歴史が、考古学という学問から明らかにされてきたことを、島根県埋蔵文化財調査センターの仕事から紹介しました。